

卒業者が求める大学教育 の質に関する調査報告

平成30年8月

志學館大学 I R 室
志學館大学運営会議

1. 趣旨

志學館大学の教育内容及び教育手法の妥当性を検証するために、大学で修得することが期待される知識・理解、技能及び態度・志向性（以下「能力等」という。）の中でどのような事項が重要か、また本学の教育がそれらの獲得に有効であったか否かを卒業生に問うアンケート調査を実施した。この調査の目的は、①自らの受けた教育を、近年の卒業生からは職業経験を経た後に評価して貰い、年長の卒業生からは企業の管理職や社会人としての長い経験に基づいて評価して貰うこと、②近年の卒業生と年長の卒業生の意見を比べることで、本学の教育内容・手法の変化について評価することにある。さらに、卒業生の意見を、平成28年度に実施した鹿児島県の企業が求める人材像とも比較し、本学学生が獲得すべき能力等（学位授与の方針）の検討にも利用することも意図した。

2. 資料と分析方法

調査対象と調査項目：平成30年6月22日に開催された鹿児島女子大学・志學館大学同窓会総会の機会に、卒業生を対象に付録に示すアンケート調査を実施した。質問項目は、中央教育審議会の平成20年答申「学士課程教育の構築に向けて」に例示された学士力を構成する能力等をベースとして作成した、平成28年度に実施した鹿児島商工会議所会員企業に対するアンケート調査と基本的に同じとした（企業に対しては各事項を「重視するか。」と問うたのに対して、卒業生には「重要と思うか。」と問うた）。各事項への回答は、「4 特に重要」、「3 やや重要」、「2 あまり重要ではない」、「1 重要ではない」の選択肢とした。加えて、すべての項目に対し、記載されている能力等を獲得するのに、本学の教育は有効であったか否かを問うた。この間では上記4選択肢の「重要」を「有効」に置き換えた。最後に、在学中の活動や受講した科目の中で最も役に立ったものと、それらから得られた能力等を問うた。

なお、本学の現在の学位授与の方針は、建学の精神に加えて、学士力及び上記の企業アンケートの結果を含めて検討し、策定したものである。

得られた資料と分析法：計64名から回答を得た。分析ではまず、回答者を、本学が人間関係学部と法学部からなる「現制度」になってからの卒業生である平成18年度以降の卒業生と、それ以前（以下「旧制度」という。）の卒業生の2グループに分けた。卒業年次が不明の場合でも出身学部学科から現旧体制の別が分かる者はそれぞれに分類した。その結果、回答者は、現制度21名、旧制度38名となった。

各設問の4段階の回答に、それぞれ1、0.5、-0.5、-1のダミー一点を与え、グループごとに回答者の平均点を求め、評価点とした。この評価点は、最大値1、最小値-1、の間に平均値の期待値0で分布する。この方法は、商工会議所会員企業へのアンケート調査の分析法とは異なるものであった。今回の回答では、総じて「特に重要」、「特に有効」の回答が多く、商工会議所会員企業の場合に採用した、最も多くの企業が該当した回答と、「特に重視」と「やや重視」を合わせた回答数の割合が評価指標となりえなかったために採用したものである。比較のために、商工会議所会員企業の資料も同じ方法で分析し直し、今回の結果と比較した。

3. 分析結果と考察

3.1 重要度と有効度に関する総括的な集計

以下の記述では、煩雑さを避けるために、設問事項は、混乱なく意味が分かる範囲で短縮した

キーワードで記載する。

現制度卒業生：重要度に関する質問では、すべての質問項目で、大半の回答は、「4 特に重要」又は「3 やや重要」に集中し、「2 あまり重要ではない」とした回答は5つの事項にのみ現れ、「1 重要ではない」とした回答はなかった。質問した能力等はすべて重要であると考えられていることを示している。ただし、全体として、態度・志向性に関する事項の評価点が高く、知識・理解や汎用的技能の中に評価点がやや低いものが多い傾向があった。

重要度の評価点が高かったのは、「3.1 自己管理能力」、「3.4 倫理観」、「3.5 社会的関心」（評価点はすべて0.98）であった。三者はすべて、学士力答申の中で、知識・理解や技能ではなく、態度・志向性に分類されるものであった。

一方、評価点が低かったのは「1.1 教養（人類の文化、社会と自然に関する理解）」（0.62。以下括弧内は評価点）、「2.3 数量的分析能力」（0.74）、「2.2 外国語能力」（0.79）であった。

表1 卒業生（現制度）が大学卒業生にとって重要と考える能力等（単位：回答数）

	回答選択肢	4*	3	2	1	計	平均値
1. 知識・理解							
(1) 人類の文化、社会と自然に関する理解	11	7	3	0	21	0.62	
(2) 多文化・異文化に関する理解	15	6	0	0	21	0.86	
(3) 地域の社会・産業に関する知識	15	6	0	0	21	0.86	
(4) 専攻分野における知識・技能	19	1	1	0	21	0.90	
(5) 業務に関連する資格を取得している	19	0	2	0	21	0.86	
2. 職業生活でも社会生活でも必要な汎用的技能							
(1) 正しい日本語を使いこなす能力	17	4	0	0	21	0.90	
(2) 外国語によるコミュニケーション能力	16	3	2	0	21	0.79	
(3) さまざまな事象を数量的に分析・表現できる能力	12	8	1	0	21	0.74	
(4) 情報通信技術を用いて情報を収集・分析できる能力	17	4	0	0	21	0.90	
(5) 情報や知識を論理的に分析・表現できる能力	16	5	0	0	21	0.88	
(6) 説得力あるプレゼンテーションや説明ができる能力	17	4	0	0	21	0.90	
(7) 大学卒業後も自ら学習できる生涯学習能力	17	4	0	0	21	0.90	
3. 態度・志向性							
(1) 自らを律して行動できる自己管理能力	20	1	0	0	21	0.98	
(2) 他者と協調・協働して行動するチームワークへの適正	19	2	0	0	21	0.95	
(3) 目標の実現を目指し他者に方向性を示すリーダーシップ	18	3	0	0	21	0.93	
(4) 自己の良心と社会の規範に従って行動できる倫理観	20	1	0	0	21	0.98	
(5) 社会に関心を持つ態度・志向性	20	1	0	0	21	0.98	
4. 学習経験を統合した創造的思考力							
(1) 現状を分析し課題(問題点)を発見する能力	19	2	0	0	21	0.95	
(2) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し問題の解決策を得る能力	16	5	0	0	21	0.88	

* 4:特に重要 3:やや重要 2:あまり重要ではない 1:重要ではない

本学教育の有効度に関する評価点は、概して重要度に関する評価点より低かった。全体として、知識・理解に関する事項の評価点が高く、評価点が低いものは多くの領域にばらつき、領域間に明瞭な傾向はなかった。

評価点が高かったのは、「1.4 専門的知識・技能」(0.74)、「1.2 異文化理解」(0.57)、「3.5 社会的関心」(0.55)であった。重要と考える能力等と本学の教育が有効であったとする事項が、一つを除き異なっている点は、懸念されるところである。

一方、評価点が低かったのは「2.3 数量的分析能力」(0.02)、「3.3 リーダーシップ」(0.19)、「4.1 問題発見力」(0.21)であった。

表2 卒業生（現制度）が考える各能力等を獲得するための本学の教育の有効度

	4*	3	2	1	計	平均値
1. 知識・理解						
(1)人類の文化，社会と自然に関する理解	9	7	5	0	21	0.48
(2)多文化・異文化に関する理解	11	6	4	0	21	0.57
(3)地域の社会・産業に関する知識	7	8	6	0	21	0.38
(4)専攻分野における知識・技能	14	5	2	0	21	0.74
(5)業務に関連する資格を取得している	12	3	6	0	21	0.50
2. 職業生活でも社会生活でも必要な汎用的技能						
(1)正しい日本語を使いこなす能力	7	8	6	0	21	0.38
(2)外国語によるコミュニケーション能力	11	5	5	0	21	0.52
(3)さまざまな事象を数量的に分析・表現できる能力	5	4	11	1	21	0.02
(4)情報通信技術を用いて情報を収集・分析できる能力	7	7	6	1	21	0.31
(5)情報や知識を論理的に分析・表現できる能力	6	8	5	2	21	0.26
(6)説得力あるプレゼンテーションや説明ができる能力	10	5	4	2	21	0.40
(7)大学卒業後も自ら学習できる生涯学習能力	8	9	4	0	21	0.50
3. 態度・志向性						
(1)自らを律して行動できる自己管理能力	9	7	5	0	21	0.48
(2)他者と協調・協働して行動するチームワークへの適正	8	8	4	1	21	0.43
(3)目標の実現を目指し他者に方向性を示すリーダーシップ	5	7	9	0	21	0.19
(4)自己の良心と社会の規範に従って行動できる倫理観	6	8	7	0	21	0.31
(5)社会に関心を持つ態度・志向性	8	10	3	0	21	0.55
4. 学習経験を統合した創造的思考力						
(1)現状を分析し課題(問題点)を発見する能力	4	9	8	0	21	0.21
(2)獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し問題の解決策を得る能力	5	11	5	0	21	0.38

* 4:特に有効 3:やや有効 2:あまり有効ではない 1:有効ではない

旧体制卒業生：重要度に関するすべての質問項目で、大半の回答は、4又は3の選択肢に集中し、

1とした回答がなかった点は現制度卒業生と同じであったが、点数は全体として現制度卒業生のそれよりやや低かった。全体として、汎用的技能や態度・志向性に関する事項の評価点が高く、知識・理解に点数がやや低いものがあった点は、現制度卒業生と異なっていた。

重要度の評価点が高かったのは、「2.1 日本語能力」(0.96)、「2.2 外国語能力」(0.92)、「2.7 生涯学習能力」(0.92)、「3.2 チームワーク」(0.92)であった。前三者は主に学士力答申の中で汎用的技能に分類されるものである。また、これらは現体制卒業生の回答とまったく異なっていた。

一方、評価点が低かったのは「1.1 教養」(0.74)、「1.5 資格取得」(0.78)、「1.3 地域に関する知識」(0.79)であった。これらはすべて知識・理解に係る事項であった。

表3 卒業生（旧制度）が大学卒業者にとって重要と考える能力等（単位：回答数）

1. 知識・理解						
(1) 人類の文化、社会と自然に関する理解	22	14	2	0	38	0.74
(2) 多文化・異文化に関する理解	29	8	1	0	38	0.86
(3) 地域の社会・産業に関する知識	24	13	1	0	38	0.79
(4) 専攻分野における知識・技能	26	11	1	0	38	0.82
(5) 業務に関連する資格を取得している	25	11	2	0	38	0.78
2. 職業生活でも社会生活でも必要な汎用的技能						
(1) 正しい日本語を使いこなす能力	35	3	0	0	38	0.96
(2) 外国語によるコミュニケーション能力	34	3	1	0	38	0.92
(3) さまざまな事象を数量的に分析・表現できる能力	26	11	1	0	38	0.82
(4) 情報通信技術を用いて情報を収集・分析できる能力	31	7	0	0	38	0.91
(5) 情報や知識を論理的に分析・表現できる能力	28	9	1	0	38	0.84
(6) 説得力あるプレゼンテーションや説明ができる能力	31	7	0	0	38	0.91
(7) 大学卒業後も自ら学習できる生涯学習能力	34	3	1	0	38	0.92
3. 態度・志向性						
(1) 自らを律して行動できる自己管理力	30	8	0	0	38	0.89
(2) 他者と協調・協働して行動するチームワークへの適正	34	3	1	0	38	0.92
(3) 目標の実現を目指し他者に方向性を示すリーダーシップ	25	13	0	0	38	0.83
(4) 自己の良心と社会の規範に従って行動できる倫理観	28	10	0	0	38	0.87
(5) 社会に関心を持つ態度・志向性	30	8	0	0	38	0.89
4. 学習経験を統合した創造的思考力						
(1) 現状を分析し課題(問題点)を発見する能力	27	10	1	0	38	0.83
(2) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し問題の解決策を得る能力	25	12	1	0	38	0.80

* 4:特に重要 3:やや重要 2:あまり重要ではない 1:重要ではない

本学教育の有効度に関する評価点が重要度に関する評価点より概して低かった点は、現制度卒業生の場合と同じであった。点数が高い事項、低い事項ともに多くの領域にばらつき、明確な傾向はなかった。

有効度の評価が高かったのは、「3.2 チームワーク」(0.59)、「1.5 資格取得」(0.55)、「1.4 専門的知識」(0.55)であった。ここでも、重要と考える能力等と本学の教育が有効であったとする事項が異なっていた。

一方、評価が低かったのは「1.3 地域関連知識」(0.17)、「2.4 情報通信能力」(0.20)、「2.3 数量的分析能力」(0.25)であった。

表4 卒業生（旧制度）が考える各能力等を獲得するための本学の教育の有効度

	4*	3	2	1	計	平均値
1. 知識・理解						
(1) 人類の文化，社会と自然に関する理解	11	16	9	1	37	0.36
(2) 多文化・異文化に関する理解	10	17	10	0	37	0.36
(3) 地域の社会・産業に関する知識	7	16	13	2	38	0.17
(4) 専攻分野における知識・技能	13	19	6	0	38	0.51
(5) 業務に関連する資格を取得している	18	14	4	2	38	0.55
2. 職業生活でも社会生活でも必要な汎用的技能						
(1) 正しい日本語を使いこなす能力	9	20	8	1	38	0.37
(2) 外国語によるコミュニケーション能力	7	20	10	1	38	0.29
(3) さまざまな事象を数量的に分析・表現できる能力	9	16	11	2	38	0.25
(4) 情報通信技術を用いて情報を収集・分析できる能力	8	15	12	2	37	0.20
(5) 情報や知識を論理的に分析・表現できる能力	9	18	9	1	37	0.34
(6) 説得力あるプレゼンテーションや説明ができる能力	9	16	11	1	37	0.28
(7) 大学卒業後も自ら学習できる生涯学習能力	13	17	6	2	38	0.43
3. 態度・志向性						
(1) 自らを律して行動できる自己管理能力	9	18	8	3	38	0.29
(2) 他者と協調・協働して行動するチームワークへの適正	17	16	5	0	38	0.59
(3) 目標の実現を目指し他者に方向性を示すリーダーシップ	10	16	9	3	38	0.28
(4) 自己の良心と社会の規範に従って行動できる倫理観	10	17	9	2	38	0.32
(5) 社会に関心を持つ態度・志向性	12	19	5	2	38	0.45
4. 学習経験を統合した創造的思考力						
(1) 現状を分析し課題(問題点)を発見する能力	9	21	6	2	38	0.38
(2) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し問題の解決策を得る能力	8	22	6	2	38	0.37

* 4:特に有効 3:やや有効 2:あまり有効ではない 1:有効ではない

3.2 卒業生グループ間及び調査間の比較

重要と考えられる能力等：現制度の卒業生、旧制度の卒業生、商工会議所企業の回答を、重要度(商工会議所企業の場合は「重視する」)の評価点が高かったものと低かったものとで比較した。態度・志向性や汎用的技能の重要度点数が高く、知識・理解の点数が低いという点では概ね共通していた。

ただし、現制度の卒業生は態度・志向性を重要と考えるが、旧制度卒業生は主に汎用的技能を重要と考えている点で差があった。現制度卒業生の観点が商工会議所企業の回答ときわめて似通ったものであった点が注目される。

重要度評価点が低かった回答では、現制度卒業生では汎用的技能が多く、旧制度卒業生ではすべて知識・理解又は技能に関するものであった。外国語能力や教養を重要と見なさない点でも、現制度卒業生の観点は商工会議所企業の回答ときわめて似通ったものであった。

表5 卒業生グループ間及び調査間の重要度に関する意見の比較

重要度	現制度卒業生	旧制度卒業生	商工会議所企業
高	3.1 自己管理能力 (0.98)	2.1 日本語能力 (0.96)	3.2 チームワーク (0.87)
	3.4 倫理観 (0.98)	2.2 外国語能力 (0.92)	3.1 自己管理能力 (0.80)
	3.5 社会的関心 (0.98)	2.7 生涯学習能力 (0.92)	3.4 倫理観 (0.78)
低		3.2 チームワーク (0.92)	
	1.1 教養 (0.62)	1.1 教養 (0.74)	2.2 外国語能力 (-0.16)
	2.3 数量的分析能力(0.74)	1.5 資格取得 (0.78)	1.1 教養 (-0.08)
	2.2 外国語能力 (0.79)	1.3 地域関連知識 (0.79)	1.2 異文化理解 (0.01)

能力獲得の上での本学の教育の有効度：有効度が高いとされたのは、現・旧制度の卒業生ともに、主に専門的知識を含む知識・理解の修得に関するものであった。低いと評価されたのは、現制度、旧制度の卒業生ともに、多くの領域にばらついていていた。

現制度卒業生が、現在の高等教育で強調され、学力の三要素などで重視される、「3.3 リーダーシップ」や「4.1 問題発見力」での有効度を低く評価した点には、注意を要する。

表6 卒業生グループ間の本学教育の有効度に関する意見の比較

有効度	現制度卒業生	旧制度卒業生
高	1.4 専門的知識 (0.74)	1.4 専門的知識 (0.74)
	1.2 異文化理解 (0.57)	3.2 チームワーク (0.59)
	3.5 社会的関心 (0.55)	1.5 資格取得 (0.55)
低	2.3 数量的分析力 (0.02)	1.3 地域関連知識 (0.17)
	3.3 リーダーシップ (0.19)	2.4 情報通信技術 (0.20)
	4.1 問題発見力 (0.21)	2.3 数量的分析能力 (0.25)

3.3 最も役に立った授業科目等

在学中に受講した科目や活動の中で最も役に立ったものとして挙げられたものに含まれるキーワードを、カテゴリー化して整理した（英語については、共通教育の外国語学習か専門教育の中の英語・英米文学かいずれを指すか分からない場合が多かったので、このカテゴリー分けはやや不正確である）。現在の学科等に対応させると、心理学、文化・社会、法学、日本語教員養成副専攻に関するもの、教職を中心とした資格取得教育に関するものが多かった。実習、演習、実験といった、講義以外の学び方を挙げた意見も多かったことにも注目される。

表7 能力等獲得のために役に立った授業科目等

カテゴリー	能力等獲得のために役に立った授業科目等
共通教育	哲学(2)、異文化コミュニケーション、こころの健康
	語学、英語(4)、ドイツ語、中国語
	インターネット演習、キャリア開発
専門教育	心理学(6)、臨床心理(2)、神経心理、福祉心理学
	国文学、文学、英文学、英会話、女性学、都市社会学、同和教育
	法律(3)、社会調査(3)、社会学(2)、国際関係論
	日本語教育(3)、異文化コミュニケーション
資格取得	教職(5)、教育実習(2)、教育学(2)、資格(2)、司書(2) 司書教諭、宅建講座、FP、学芸員、博物館学、公民館
授業方	実習(9)、演習(3)、実験(2)、卒論ゼミ、特殊研究、インターンシップ
講演	椋鳩十先生の講演、男女雇用機会均等法についての講演
サークル	サークル活動(3)

役立った科目等によって身に付いた能力等：役立った科目等とそれによって得られた能力等が一对一对で記載されていなかったため、両者の関係を正確に分析することはできなかった。ただし、役立ったとされた科目等により身に付いたと能力等として受け止められているのは、主に「1.2 異文化理解(6、数字は類似の回答数。以下同じ。）」、「1.4 専門的知識・理解(5)」、「3.2 チームワーク(5)」などであった。「異文化理解」に役だった科目等として挙げられたのは、語学、英語、中国語、異文化コミュニケーション、日本語教員養成、インターンシップ、心理学の実習(2)、福祉心理学、キャリア開発演習などであった。「専門的知識・理解」に役だった科目等として挙げられたのは、法律、心理(3)、ドイツ語、教員養成、博物館学、実習(2)、卒論ゼミで、「チームワーク」に役だった科目等として挙げられたのは、サークル活動(3)、教育実習(2)、日本語教育、心理学実験、英会話、実習であった。

その他の多くの能力等についても、役立ったとされる科目等が3~1件挙げられていたが、「数量的分析能力」及び「総合的な問題解決能力」を涵養する上で役立った感じられている授業科目等はなかった。

この分析から、外国語学習は外国語を使うスキルの獲得よりも異文化理解の手段として理解されていることが分かる点は、印象深い。

4. まとめ

まず最初に、本調査で、企業アンケートに比べて重要度が高く評価されたが、企業アンケートの場合「重視するか」との問いでやや選択的な問いとのニュアンスがあったため評価点が低くなったものと考えられ、二つの調査に表れた重要度評価点の全体的な差は、企業経営者と本学卒業生の考えの本質的な差を反映するものではないと考える。

現制度の卒業生が、態度・志向性に含まれる能力等を重視しているのは、専門的知識・理解を重視した従来の教育から学力の三要素の考えに基づく教育への移行を感じ取っているものと考え

る。ただし、旧制度の卒業生が重視する汎用的技能を現制度の卒業生があまり重視していない点は、懸念される点である。また、日本語能力、本題発見・解決力（学習経験を統合した創造的思考力）の重要度が高いとの評価が必ずしも多くない点も懸念される。

現制度の卒業生が、本学の教育は、数量的分析力、リーダーシップ、問題発見力の獲得のための有効度は低いと評価して点は、今後の本学の教育内容・手法を検討する上で重要な情報であると考えられる。

役立つ科目とそれらにより涵養された能力等の比較から、卒業生が外国語学習を外国語コミュニケーションスキルより異文化理解と感じていると看取できる点も、今後の本学のカリキュラムを考える上で重要な情報である。また、講義ばかりではなく実習、演習、インターンシップ等のさまざまな学びの方法から、態度・志向性に係る各種の能力等を獲得できると感じている点も教育手法を考える上で重要である。アクティブラーニング推進の方向性と一致する意見であるとも考える。

今回の調査で、現・旧制度卒業生がともに教養を、現制度卒業生はさらに外国語能力をも重要と見なさない点は憂慮される。これは、商工会議所会員企業に見られた傾向とも一致している（この調査では、異文化理解も重要性が低く評価された）。これらについては、社会の多様性の増大、グローバル化とともに必須となる能力等と考えられるものであり、卒業生（ひいては学生）の意見にいたずらに追随するのではなく、大学としての主張・メッセージを学生に伝えていくよう努めたいと考える。

平成 30 年 6 月 2 2 日

大学卒業者に求められる能力に関するアンケート

志學館大学では、カリキュラムの質の向上を図るうえでの基礎資料とするために、職業人あるいは社会人として活動していく上で、大学卒業者にとって重要と考えられる知識や能力、態度等について、企業等の意見を聴く調査を実施してきました。この度は、これらについての卒業生の方々のお考えをお聞かせ頂きたいと思ひます。

以下に掲げる能力・知識等が重要である、また当該能力を身につけるのに鹿児島女子大学または志學館大学での教育は有効だった（身についた）との記述に賛成か否かを、（4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまりそうは思わない 1：そうは思わない）の四段階でお答え頂きたいと思ひます。ご回答は、各項目の該当する数字に○を付して下さるようお願い致します。

なお、一度就職した後、現在は家事に従事されている場合は、就職していた頃の職業又は家事いずれの立場（視点）から回答して頂いても結構です。

1. 知識・理解		そう 思う	う やや そう 思	あ ま り そ う は 思 わ な い	な い そ う は 思 わ な い
(1)	人類の文化、社会と自然に関する理解は重要である。	4	3	2	1
	上記の理解を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(2)	多文化・異文化に関する理解は重要である。	4	3	2	1
	上記の理解を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(3)	地域の社会・産業に関する知識は重要である。	4	3	2	1
	上記の知識を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(4)	専攻分野における知識・技能は重要である。	4	3	2	1
	上記の知識・技能を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(5)	業務に関連する資格を在学中に取得していることは重要である。	4	3	2	1
	上記の資格を取得するのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1

2. 職業生活でも社会生活でも必要な汎用的技能		そう 思う	う やや そう 思	あ ま り そ う は 思 わ な い	な い そ う は 思 わ な い
(1)	正しい日本語を使いこなす能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(2)	外国語によるコミュニケーション能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(3)	さまざまな事象を数量的に分析・表現できる能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(4)	情報通信技術を用いて情報を収集・分析できる能力は重要である。	4	3	2	1

	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(5)	情報や知識を論理的に分析・表現できる能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(6)	説得力あるプレゼンテーションや説明ができる能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(7)	大学卒業後も自ら学習できる生涯学習能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1

3. 態度・志向性		そう 思う	う や や そう 思	あ ま り そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い
(1)	自らを律して行動できる自己管理能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(2)	他者と協調・協働して行動するチームワークへの適性は重要である。	4	3	2	1
	上記の適性を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(3)	目標の実現を目指し他者に方向性を示すリーダーシップは重要である。	4	3	2	1
	上記の志向性を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(4)	自己の良心と社会の規範に従って行動できる倫理観は重要である。	4	3	2	1
	上記の倫理観を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(5)	社会に関心を持つ態度・志向性は重要である。	4	3	2	1
	上記の態度等を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1

4. 学習経験を統合した創造的思考力		そう 思う	う や や そう 思	あ ま り そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い
(1)	現状を分析し課題（問題点）を発見する能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1
(2)	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し問題の解決策を得る能力は重要である。	4	3	2	1
	上記の能力を身につけるのに本学の教育は有効だった。	4	3	2	1

5. 在学中の学びの中で役にたったことについて

(1) 在学中の活動や受講した科目の中で最も役に立ったと思うものを教えて下さい（科目の場合、正式な科目名でなくても、〇〇に関する実習、〇〇語や〇〇講座といった回答でも結構です。）
（ ）

(2) 上記の活動や受講科目で、上記1. から4. に掲げた理解、知識、能力等のいずれが身についたと思われるか教えて下さい。（記入例 1.(1) ）

6. 回答者について

差し支えなければ、あなたに関して以下のことを教えてください。

(1) 卒業した大学を選んで○を付して下さい。 (a.鹿児島女子大学 b.志学館大学)

在学中の所属を教えてください。 (_____ 学部 _____ 学科)

卒業した年を教えてください。 (a.昭和 b.平成 _____ 年3月)

ご多忙のところ、ご協力頂きありがとうございました。今後の学生教育のための貴重な資料として活用させていただきます。なお、この調査の結果は、集計・分析結果のみを、本学の教育改善の目的のためだけに利用します。